

研究課題別事後評価結果

1. 研究課題名： マルチモーダルなふるまいに基づく音声対話の人間目標型評価

2. 個人研究者名

井上 昂治（京都大学大学院情報学研究科 助教）

3. 事後評価結果

本研究は音声対話システムの客観的評価を目指し、ユーザーの多様なふるまいに基づく評価指標の確立に成功した。音声対話システムの「人間らしさ」評価に関連するユーザーの行動特徴を明確にし、音声対話の質を客観的に評価する新たな枠組みを提案している。

特筆すべき成果として傾聴対話、就職面接、初対面会話など、複数の対話タスクを分析し、各タスク特性に基づき、主観評価に関連するユーザーのふるまいを明らかにした。また、音声対話システムの要素技術として、同調笑いの生成やマルチリンガルターンテイキングシステムの開発も進め、システムの自然さと共感性を向上させた点が挙げられる。

本研究者はACT-Xのプロジェクトを通し、音声対話システムの人間らしさを客観的に評価する枠組みを確立し、多様な対話タスクに応用可能な評価指標の汎用性を高めることに成功した。今後は音声対話システムの社会実装を目指した研究推進が期待される。